

## くまびょう

117号

NEWS

くまびょう  
NEWS2007年  
3月1日

[発行所]

国立病院機構熊本医療センター

〒860-0008

熊本市二の丸1番5号

TEL (096) 353-6501(代)

FAX (096) 325-2519

## 平成18年度 第2回(通算第22回)開放型病院連絡会開催される



福田稔委員長のご挨拶

平成18年度第2回通算第22回開放型病院連絡会は2007年2月14日(水)19時より当院の地域医療研修センターにて開催されました。まず院長が、歴代の開放型病院連絡協議会委員並びに登録医の先生方へのお礼を述べ、病院の最近の取り組みとして、電子カルテと内視鏡下脊椎手術の導入、大型救急車と最新式MRIの購入を行ったことを紹介しました。さらに病院の建て替えの状況を報告しました。次いで、開放型病院運営協議会委員長の熊本市医師会長福田稔先生より挨拶を頂きました。福田先生は現代の医療提供には、医療の機能分化と医療連携が不可欠であることを強調され、当院の医療連携の取り組みを評価して頂きました。

全体会議は、熊本市医師会理事の清田武俊先生と池井が司会を担当し、症例呈示では形成外科の大島医長が「巨大色素性母斑の手術療法」として、大きな色素性母斑の手術例を提示し、患者の精神面からも幼少時に治療を始める方が良いことを強調しました。また整形外科の橋本医長が「当科における内視鏡下脊髄手術(後方法)について」で椎間板ヘルニア等に行っている内視鏡下脊椎手術をビデオを使って供覧し、疼痛が少なく術後の回復も早いことを述べました。総合討論では登録医の先生より当院に対する要望等を述べて頂きました。最後にメインテーマの特別講演として厚生労働省近畿厚生局長の松本義幸先生より「これからの医療提供体制について」のご講演を頂きました。先生

は医療の現状と課題、医療制度改革法の概要、医師確保対策について、療養病床の再編成について、有床診療所について、とテーマを5つにわけて詳しく丁寧に講演されました。

講演終了後フロアの登録医の先生方との活発な討議が行われましたが、特に山鹿の保利先生より「急性期病床も将来見直されるのではないか」との質問があり、松本先生もするどい質問であったと感心されていました。松本先生は熊本大学のご出身と言うこともあり、会場一杯の聴衆で盛会の講演会になりました。

今回も多数の登録医の先生方にご出席頂き有り難うございました。会場が手狭でご迷惑をお掛けしましたことをお詫び致します。来年度からは、新築工事にともない臨時駐車場の確保が困難になることもあり、新病院(広い新研修センターがあります)完成までは、年度2回目の連絡会も院外で行う予定です。次回も多数ご参加下さいますようお願い致します。

(副院長 池井 聡)



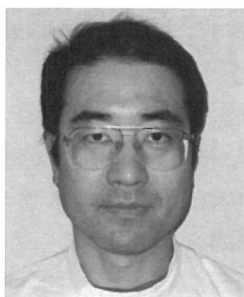
厚生労働省近畿厚生局長松本先生のご講演風景

ホームページをご利用下さい。診療、研修、研究など情報満載です。

国立病院機構熊本医療センター ホームページアドレス <http://www.hosp.go.jp/~knh/>



## 「困ったときの国立頼み」



寺原診療所

院長 橋本 泰嘉

私は2004年に熊本市壺川で内科を開業致しました。専門は糖尿病、高血圧、高脂血症などですが、なぜか骨折、癌などの患者さんも来られますので、「困った時の国立頼み」でお世話になっております。

外から見た国立病院機構熊本医療センターは、病

院の理想像を目指しておられるように感じます。あらゆる患者を受け入れようという姿勢が徹底しているようです。広いとは言えない救急外来を上手に使用して対応されていることにも感心します。開業医にとっては有難い存在ですが、スタッフの皆さんの負担は相当なものだと思います。

私が学生の頃の旧国立病院は、建物のせいか正直言って古くさいような気がしましたが、現在は専門性と教育体制を兼ね備えた本来あるべき形の総合病院であると感じます。気のせいか看護師さんも若くきれいになったような気がします、と言ったら退職された方に怒られますが、それくらいのイメージ改革を達成されています。

グチめいた話になりますが、近年は会議や事務を生業とする人達の要求が強く、事務作業が増えるばかりです。そこには医療をスムーズに運営して患者の安全を目指すという視点が感じられません。結果として、圧倒的な量の作業をこなすためにモニター画面にばかり目を向けて、合間に診察せざるえない傾向がますます進むと思います。

スタッフの皆様は、どうかバーンアウトしないよう、ご自愛くださいますようお願い申し上げます。

## 平成18年度九州ブロック院内感染対策研修会開催報告

去る1月24日(水)より26日(金)の3日間にわたり、国立病院機構九州ブロック主催による、平成18年度の院内感染対策研修会が、当院地域医療研修センターにて開催されました。対象者は、国立病院機構九州ブロックから推薦された各施設の院内感染対策を担う医師7人、看護師33人です。また九州以外の全国の国立病院から医師2人、看護師11人の他、県内の行政機関、一般病院の方々の参加もあり、当院の職員も多数参加しました。さらに、今回は、ノロウイルス感染が全国的に流行していたため九州ブロック各病院の管理栄養士の方々も参加頂きました。研修の目的は、「院内感染対策に関する最新の専門的知識を習得し、院内感染対策の充実を図ること」とされています。

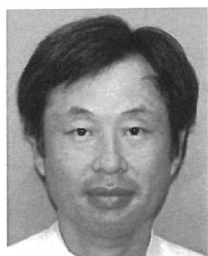
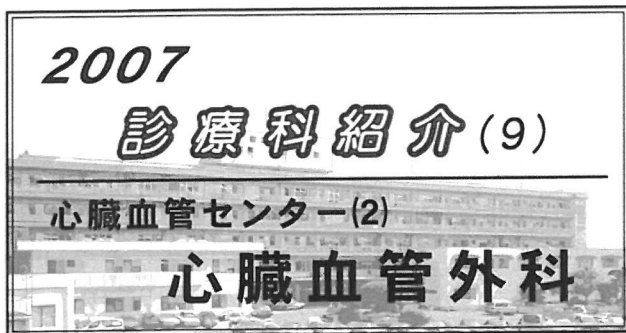
本研修では、院内感染で著名な外部講師14名にお願いし、当院からも加口(疥癬)、青木(流行性角結膜炎)、河野(エビデンスに基づく院内感染対策)、芳賀(ノロウイルス感染：特に食中毒について)、吉田(手洗いの重要性和実践)、東島(国立病院機構ネットワークによる薬剤耐性菌のサーベイランス)が講演しました。

今回は、トピックスとして、鳥インフルエンザ、多剤耐性緑膿菌、抗菌薬の適正使用など興味ある演題が多数採用されました。院内感染の減少は患者様に最も望ましいことであり、医療の質の面からも特に重要と思われる。なお、御協力を頂きました多くの方々に御礼申し上げます。(副院長 河野 文夫)



厚生労働省医政局指導課 徳本史郎先生のご講演





### 岡本 実

心臓血管外科、冠動脈外科  
大動脈外科  
日本外科学会専門医  
日本胸部外科学会認定医  
心臓血管外科専門医

## 診療内容と特色

心臓血管外科では循環器内科と連携し、心臓大動脈疾患に加え、末梢動脈疾患（腹部大動脈瘤、閉塞性動脈硬化症）も扱っています。心臓疾患では、人工心肺装置を使用しない心拍動下バイパス術は冠動脈バイパス術の80%で毎年同様な割合になっています。弁膜症のうち僧房弁閉鎖不全症では約7割が形成術です。

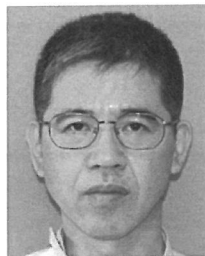
動脈瘤治療では、血管内治療、カテーテル治療といわれるステントグラフトが増えており、昨年は3例行い10日程度で元気に退院されています。胸部下行大動脈瘤はほとんどがステントグラフト治療になると予想しています。循環器内科が血管新生療法をスタートさせたことで重症下肢虚血症例が増えており、そのため膝下（Below knee）へのバイパス手術が多くなっています。

24時間体制で心臓血管疾患の緊急症例に対応しています。特に急性大動脈解離や胸部大動脈瘤破裂による緊急手術（17例）は多く、モービルCCUでの搬送、症例に応じては熊本県防災センターと協力し、ヘリコプターでの緊急搬送を行い救命率の向上に努めています。

## 研究実績

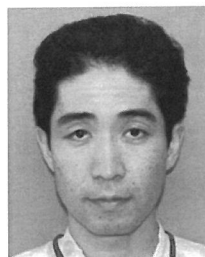
・循環器病委託研究16公一9 課題名「虚血性心疾患の手術死亡率および合併症発症率改善のための多施設共同研究」：人工心肺非使用拍動下冠動脈バイパス術の研究です。

・平成17年度政策医療ネットワーク共同研究（I）「急性大動脈解離の凝固系指標と手術成績との関連の研究」：急性大動脈解離の手術適応の研究です。



### 毛井 純一

冠動脈外科、弁膜症外科  
大動脈外科  
日本胸部外科学会認定医  
日本胸部外科学会指導医  
日本外科学会認定医  
日本外科学会専門医  
日本外科学会指導医  
日本循環器学会専門医  
心臓血管外科専門医  
熊本大学非常勤講師



### 岡本 健

心臓血管外科  
カテーテルインターベンション  
日本外科学会認定医  
日本外科学会専門医  
日本消化器外科学会認定医

## 診療実績

手術症例数は2005年は131例で、2006年は心大血管手術症例は61例、腹部大動脈瘤28例、ASOの下肢バイパス16例、その他の末梢動脈手術30例、胸部大動脈瘤に対する血管内ステントグラフト治療は3例で、合計135例でした。

最近の特徴はDES（薬剤溶質性ステント）の普及により冠動脈バイパスは減少し、より重度の冠動脈病変が多くなっていること、大動脈においては急性解離を含め、大動脈、末梢動脈手術は平均で70歳を超えていることですが、当院の特徴かもしれません。

表：2006年主要疾患の手術成績

主要疾患の手術術式	症例数	年齢	在院死
冠動脈バイパス術 (うち人工心肺非使用手術)	23 (17)	67.6	0 (0)
弁膜症手術	10	66.2	1
急性大動脈解離手術	13	71.5	1
弓部大動脈瘤手術 (うち破裂症例手術)	10 (4)	73.7	2 (2)
腹部大動脈瘤手術 (うち破裂症例手術)	28 (7)	73.3	1 (1)
下肢バイパス (うち下腿へのバイパス術)	16 (9)	73.5	9 (1)

## ご案内

外来診療は大半が術後遠隔成績評価のための術後外来（術後1、3ヶ月、1、3、5年）と新患外来です。術後外来では検査に1～2時間、診察も新患並みに40分程度要します。そのため、術後の定時処方を含む安定期の通院診療は特殊な例を除いて、すべて紹介医または患者の近隣の医療施設にお願いしています。外来診療日は火・水・金ですが、新患は手術日（月・木）でも対応しています。

最近のトピックス

視神経脊髄型多発性硬化症と抗アクアポリン4抗体



脳神経センター  
神経内科医長  
俵 哲

細胞膜が、水をほとんど透過しない脂質二重層から成り立っているのに、半透膜として水を透過する機序は、細胞膜に水を選択的に通過させるアクアポリンaquaporinという膜蛋白質があることで説明されています。ヒトでは13種類のアクアポリン(AQP)が発見されています(図1)。脳に多いのはAQP1、AQP4、AQP9です。AQP1は髄液産生と脊髄後角への痛覚投射に、AQP4は血管周囲の星状細胞の軸索終末に局在し、脳浮腫の増減とKイオンを介した神経細胞の興奮調節に、AQP9は視床下部の水の動きに関係しています。AQP4は視神経交叉部や脊髄、脳室周囲にも存在しています。

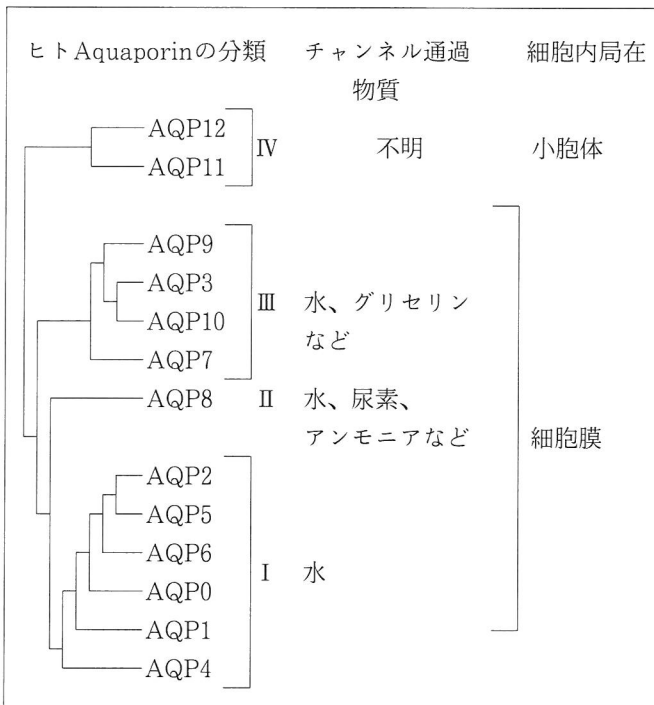


図1. ヒトアクアポリン系統図

多発性硬化症は原因不明の、時間的、空間的に多発する中枢神経系病変です。高緯度の欧米に多く、日本を含め、アジア人種には球後視神経炎と脊髄炎で発病する視神経脊髄型が多いとされています。これまで多発性硬化症の有力なマーカーとしては髄液のオリゴクローナルバンドやIgGインデックスしかなかったのですが、2004年、米国メイヨー・クリニックのLennonらによって視神経脊髄型の多発性硬化症(米国ではDevic病)患者さん73%の血清中に、抗AQP4抗体(別名NMO-IgG)が陽性であることが示されました。私どものところでも横断性脊髄炎(図2)で発病され、熊本大学病院と協同で精査中の方で、抗AQP4抗体が陽性例を経験しています。視神経脊髄型多発性硬化症は、①女性に多く、②比較的高齢発症(本邦での平均年齢:37±13歳)、③再発性、④視神経障害が高度、⑤MRIで3椎体以上に及ぶ脊髄病巣、という特徴を有しています。急性期治療は、ステロイド大量療法、血漿交換などが有効です。

国立病院機構熊本医療センターでは、これまでMRIは実質1台のみであり、ご不便をおかけしておりましたが、本年2月下旬に新しいMRIが1台稼働開始いたします。神経内科分野で、不明な症状を生じた患者様がおられました時は、早期診断早期治療を目指しておりますので、早めに紹介していただくと幸いです。

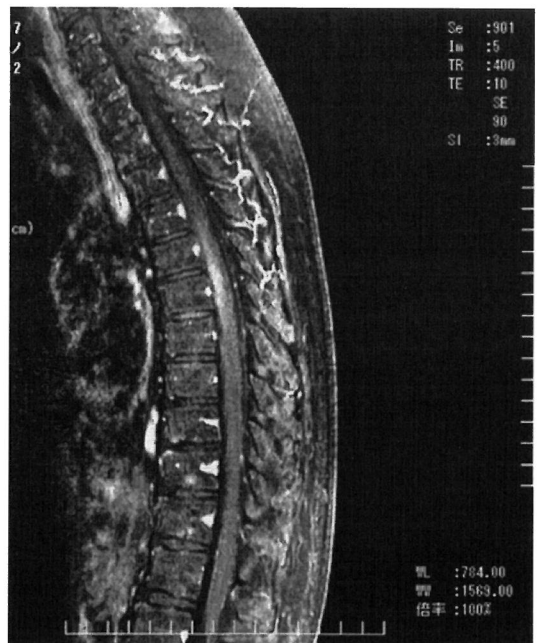


図2. 76歳、女性。Th6-7レベルの右側横断性脊髄炎で発症。血清抗アクアポリン4抗体陽性

# 放射線科検査予約システムのご案内

本年2月22日より新しいMRI装置（シーメンス社製MAGNETOM Avanto 1.5T）が稼働致しました。熊本市近郊で初めて導入された1.5T装置の最上位機種で最新の撮像法が装備されています。従来のMRI装置（フィリップス社製Intera 1.5T）と合わせ2台がフル稼働し、予約待ち時間なく先生方のご要望にお応えできると思います。

この機会に是非新しいMRI装置のご活用をお願い申し上げます。CTおよび核医学検査もよろしくお願い致します。画像診断専任医が3名で正確な画像診断報告書を作成しております。フィルムが不要の場合は

CDにて画像をお渡しできます。

検査予約は、放射線科受付096-353-6501（代）内線323へ電話予約をお願い致します。その後専用の検査予約FAX送信票（診療情報提供書兼紹介状）を医事FAX096-323-7601へ送信お願い致します。FAX送信票がご入用な場合は096-353-6501（代）内線800へお電話ください。

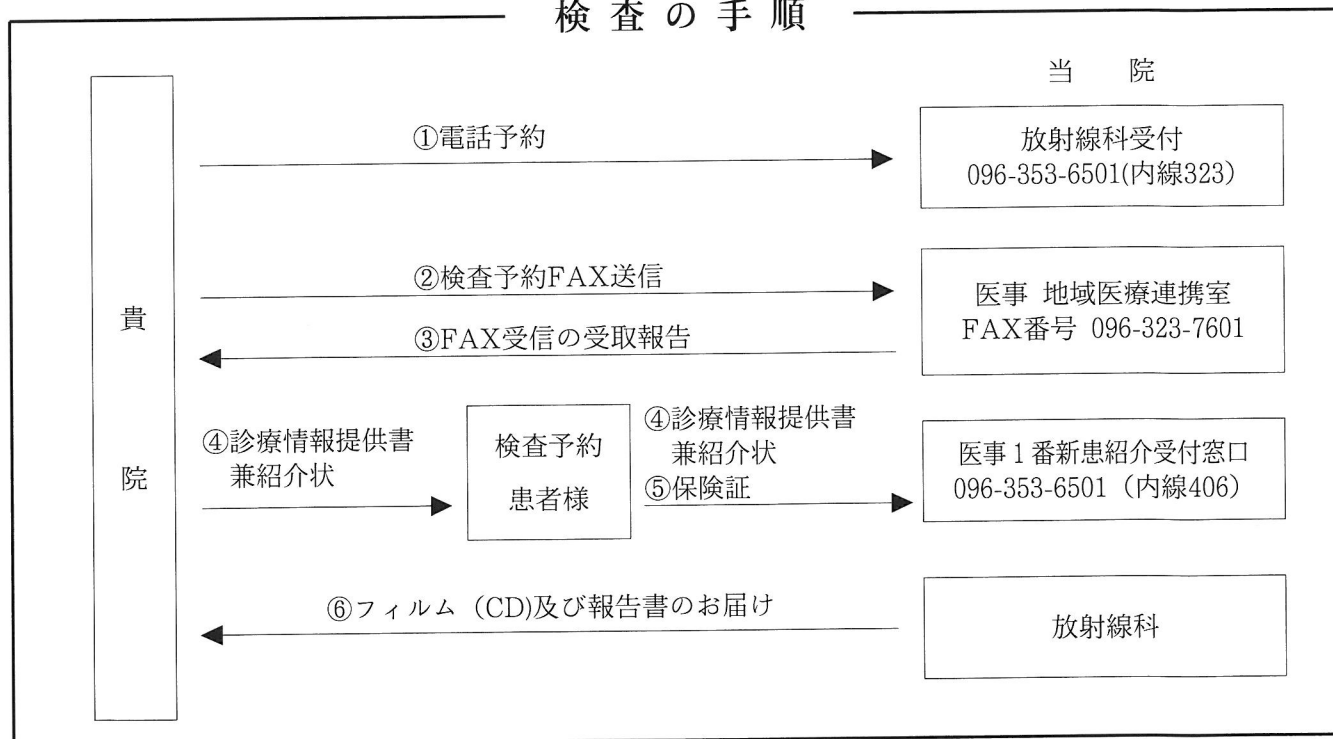
放射線治療外来は予約制で月火木金に新患外来を行っています。事前に治療専任医 富高（内線812）までご連絡お願い致します。

（画像診断・治療センター放射線科医長 吉松 俊治）

## 予約出来る検査（画像診断・治療センター：放射線科）

CT・MRI・RI（骨・Ga・レノグラム・心筋・脳血流・肝・肺血流・副腎など）

### 検査の手順



①検査予約は放射線科受付（096-353-6501 内線323）へ電話予約をお願い致します。

予約受付時間は平日の8：30から17：15です。

②検査予約FAXは送信票にご記入の上、医事（096-323-7601）へFAX送信をお願い致します。

③当院よりFAX受信した旨をFAX受取報告書でご報告致します。

④患者様には、診療情報提供書（②患者様持参用又は貴院作成様式分）及び保険証を医事新患受付窓口へ提出され受付して頂くようご指導をお願い致します。

⑤検査結果はフィルムもしくはCDと共に画像診断報告書を添えて貴院へお届け致します。

# 国際医療協力セミナーのご案内

—トロント大学家庭地域医学バティ教授を迎えて—

この度、3月20日および21日にトロント大学家庭地域医学のヘレン・バティ教授をお迎えして、研修医、レジデントなどの職員教育を行ってもらうことになりました。

カナダは国民皆保険制度が整備されており、病院はすべて公的な機関により運営されています。また、国民の生命を守るためには、初期診療が最も大切であるとの考えから、プライマリー・ケアに力を入れています。医学部卒業後の専門コースは、政府が診療科ごとに定数を定めていますが、何と、その半数以上が家庭医学に割り当てられています。これは、最大多数の国民が医療の恩恵を享受するには、国民に最も近い家庭医を多く養成しなければいけないという考えに基づいているからです。

カナダでの家庭医学とは、内科、外科、整形外科、救急医学、皮膚科、小児科などを包含する総合医学として位置づけられています。また、カナダは伝統的に良い医師を育てるための医学教育に力を入れてきました。その中で、バティ先生は「学習者中心の教育を受けた医師が患者中心の医療を行う」という持論を展開されておられます。この分野では世界的な第一人者であり、世界中で講演やワークショップをなされています。

この度、バティ先生をお迎えして講演会を開催することと致しました。きっと、素晴らしいお話が聞けると思っていますので、奮ってご参加頂きますようご案内致します。  
(外科医長 芳賀 克夫)



## 第4回国際医療協力セミナー

「患者中心の医療を推進するための学習者教育」

講演者：トロント大学家庭地域医学教授

ヘレン・バティ先生

日時：2007年3月20日（火）

午後6時～7時30分

場所：国立病院機構熊本医療センター

教育研修棟4階・会議室

## 研修レポート

### 総合医療センター

内科

にし もと こう へい  
西 本 康 兵



熊本大学病院初期臨床研修Cコース1年目として昨年4月より初期研修をさせて頂いております西本康兵と申します。眼鏡をかけるとたまに同期の中島亮と間違われます。前半は外科系で研修させて頂き、現在は内科系の研修中で、当センターでの研修も残りわずかとなりました。

これまで様々な症例や基本的手技を多く経験させて頂き、人の体に針を刺す事に抵抗は無くなったものの、技術も知識もまだまだ医師とは言えない程度です。診断能力も低く、患者様へのムンテラも満足には出来ません。これまでは脊髄反射の様な働き方をしていたが、指導医の先生方から多くを吸収できるように、日々自分の頭で考察し、治療計画を立てるよう心がけるようにしています。最近は多少の自覚も芽生えてきて、以前よりも医学書を読む時間も増えたのではないのでしょうか。これからも様々な経験をし、患者様や後輩医師にフィードバックしていきたいです。

また、同期15名の1年目研修医とは、患者様の容態について相談しあったり、互いにアドバイスをしたり、とても刺激になり持ちつ持たれつポジティブな関係です。たまに疲れを癒しに街に繰り出したり、温泉に行ったり、遊びに出掛けたり、という事もあります。同期が多いというのはとても素晴らしい事です。

これからも皆様に御迷惑をお掛けする事が多いと思いますが、御指導、御鞭撻の程宜しくお願い致します。



# ■ 研修のご案内 ■

## 第18回 熊本がんフォーラム (無料)

日時▶2007年3月2日(金)18:30~20:30

場所▶国立病院機構熊本医療センター 地域医療研修センター

### 「大腸癌の診断と治療」

その他、一般演題を数題準備しています。

〔問合せ先〕国立病院機構熊本医療センター 副院長 池井 聡 TEL 096-353-6501 (代表) FAX: 096-325-2519

司会 松本外科医院長 松本 孝一

国立病院機構熊本医療センター外科 吉田 直矢

## 第82回 救急症例検討会 (無料)

日時▶2007年3月14日(水)18:30~20:00

場所▶国立病院機構熊本医療センター 地域医療研修センター

### 症例検討「小児の救急」

国立病院機構熊本医療センター小児科部長 高木 一孝

医師、薬剤師、看護師、診療放射線技師、臨床検査技師、栄養士、救急救命士、救急隊員、事務部門等全ての医療従事者を対象とした症例検討会です。医師以外の方にも理解できるよう配慮した内容にしています。

〔問合せ先〕国立病院機構熊本医療センター 地域医療研修センター事務局 TEL 096-353-6501 (代表) 内線263 096-353-3515 (直通)

## 第67回 三木会 (無料)

(糖尿病、高脂血症、高血圧を語る会)

[日本医師会生涯教育講座3単位認定]

[糖尿病療養指導士認定更新0.5単位認定]

日時▶2007年3月15日(木)19:00~20:45

場所▶国立病院機構熊本医療センター 地域医療研修センター

### 1. 意識障害、低血糖、血圧低下、低体温を呈した副腎不全の1例

国立病院機構熊本医療センター総合医療センター内分泌・代謝内科

北田真己、市原ゆかり、児玉章子、高橋毅、東輝一朗、小堀祥三

### 2. 経過中に一過性心房細動を呈した非ケトン性高浸透圧状態の2型糖尿病の1例

国立病院機構熊本医療センター総合医療センター内分泌・代謝内科

濱田昌平、市原ゆかり、児玉章子、高橋毅、東輝一朗、小堀祥三

### 3. 統合失調症に合併した粘液水腫昏睡の1症例

国立病院機構熊本医療センター総合医療センター内分泌・代謝内科

市原ゆかり、児玉章子、高橋毅、小堀祥三、東輝一朗

なお、興味のある症例、疑問・質問のある症例がございましたら、ご持参いただきますようお願い致します。

〔問合せ先〕国立病院機構熊本医療センター総合医療センター内分泌・代謝内科 小堀 祥三・東 輝一朗 TEL 096-353-6501 (代表) 内線796

## 第210回 初期治療講座 (会員制)

[日本医師会生涯教育講座5単位認定]

[日本内科学会認定内科医更新のための2単位認定]

日時▶2007年3月17日(土)15:00~18:00

場所▶国立病院機構熊本医療センター 地域医療研修センター

### 「日常診療で診る内分泌疾患」

座長 熊本市医師会 笹原 誉之

#### 1. 下垂体副腎疾患

熊本大学医学部附属病院代謝・内分泌内科講師

宮村 信博

#### 2. 副甲状腺疾患

国立病院機構熊本医療センター内科部長

東 輝一朗

#### 3. 甲状腺疾患

田尻クリニック院長

田尻 淳一

この講座は有料で、年間10回を1シリーズ(年会費20,000円)として会費制で運営しています。但し、1回だけの参加を希望される場合は会費5,000円で参加いただけます。

〔問合せ先〕国立病院機構熊本医療センター 地域医療研修センター事務局 TEL 096-353-6501 (代表) 内線263 096-353-3515 (直通)

## 第98回 月曜会 (無料)

(内科症例検討会)

[日本医師会生涯教育講座3単位認定]

日時▶2007年3月19日(月)19:00~20:30

場所▶国立病院機構熊本医療センター 地域医療研修センター

#### 1. 胸部X線写真供覧

国立病院機構熊本医療センター総合医療センター呼吸器内科医長

森松 嘉孝

#### 2. 持ち込み症例の検討

#### 3. 症例呈示「最近経験した伝染性単核球症(EBウイルス肝炎)の1例」

国立病院機構熊本医療センター消化器病センター消化器科

濱田 昌平

#### 4. ミニレクチャー「副甲状腺疾患の診断と治療」

国立病院機構熊本医療センター内科部長

東 輝一朗

日頃、疑問の症例、興味のある症例、X線写真、心電図等がございましたら、ご持参下さいますようお願い致します。

〔問合せ先〕国立病院機構熊本医療センター副院長 河野 文夫 TEL: 096-353-6501 (代表) FAX: 096-325-2519

2007年

# 研修日程表

3月

国立病院機構熊本医療センター 地域医療研修センター

3月	研修ホール	会議室	その他
1日(木)	18:30~21:00 日本臨床細胞学会熊本県支部研修会		7:50 整形外科症例検討会 C 17~19 循環器カンファレンス C 18~19 代謝内科カンファレンス M
2日(金)	18:30~20:30 第18回 熊本がんフォーラム 「大腸癌の診断と治療」 司会 松本外科医院長 松本 孝一 講師 国立病院機構熊本医療センター外科 吉田 直矢		8:00 消化器病研究会 C 8:00 麻酔科症例検討会 手 17~18 救急部カンファレンス C
5日(月)			8:00 MGH症例検討会 C 16~18 泌尿器科病棟カンファレンス 別6 17~18 小児科カンファレンス 外来
6日(火)		18:00~19:30 血液病懇話会(図)	8:00 救急部カンファレンス C 15~18 外科術前後症例検討会 C
7日(水)		16:00~18:00 皮膚科組織検討会(図)	17:00 消化器疾患カンファレンス C
8日(木)			7:50 整形外科症例検討会 C 17~19 循環器カンファレンス C 18~19 代謝内科カンファレンス M
9日(金)			8:00 消化器病研究会 C 8:00 麻酔科症例検討会 手 17~18 救急部カンファレンス C
10日(土)	14:00~16:00 第196回 滅菌消毒法講座《会員制》 「感染制御の考え方と実際」 看護研究	熊本中央病院健診センター所長 後藤 俱子	
12日(月)			8:00 MGH症例検討会 C 16~18 泌尿器科病棟カンファレンス 別6 17~18 小児科カンファレンス 外来
13日(火)	19:00~20:30 熊本県臨床衛生検査技師会 一般検査研究班月例会	18:00~19:30 血液病懇話会(図)	8:00 救急部カンファレンス C 15~18 外科術前後症例検討会 C 19~21 泌・放射線科合同ウログラム C
14日(水)	13:00~17:00 糖尿病教室 18:30~20:00 第82回 救急症例検討会 「小児の救急」	16:00~18:00 皮膚科組織検討会(図)	12~13 糖尿病教室 研食 17:00 消化器疾患カンファレンス C
15日(木)	19:00~20:45 第67回 三木会 (糖尿病、高脂血症、高血圧を語る会) [日本医師会生涯教育講座3単位認定] [糖尿病療養指導士認定更新0.5単位認定]	19:30~21:00 有病者歯科医療研究会	7:50 整形外科症例検討会 C 17~19 循環器カンファレンス C 18~19 代謝内科カンファレンス M
16日(金)			8:00 消化器病研究会 C 8:00 麻酔科症例検討会 手 17~18 救急部カンファレンス C
17日(土)	15:00~18:00 第210回 初期治療講座《会員制》 座長 熊本市医師会 「日常診療で診る内分泌疾患」 1. 下垂体副腎疾患 2. 副甲状腺疾患 3. 甲状腺疾患	[日本医師会生涯教育講座5単位認定] [日本内科学会認定内科医更新のための2単位認定] 熊本大学医学部附属病院代謝・内分泌内科講師 宮村 信博 国立病院機構熊本医療センター内科部長 東 輝一朗 田尻クリニック院長 田尻 淳一	
19日(月)	19:00~20:30 第98回 月曜会(内科症例検討会) [日本医師会生涯教育講座3単位認定]		8:00 MGH症例検討会 C 16~18 泌尿器科病棟カンファレンス 別6 17~18 小児科カンファレンス 外来
20日(火)	18:00~19:00 第35回 くすりの勉強会(公開)	18:00~19:30 血液病懇話会(図)	8:00 救急部カンファレンス C 15~18 外科術前後症例検討会 C
22日(木)		19:00~21:00 熊本脳神経疾患懇話会	7:50 整形外科症例検討会 C 17~19 循環器カンファレンス C 18~19 代謝内科カンファレンス M
23日(金)			8:00 消化器病研究会 C 8:00 麻酔科症例検討会 手 17~18 救急部カンファレンス C
26日(月)			8:00 MGH症例検討会 C 16~18 泌尿器科病棟カンファレンス 別6 17~18 小児科カンファレンス 外来
27日(火)	18:30~20:30 血液研究班月例会	18:00~19:30 血液病懇話会(図) 19:00~21:00 小児科火曜会	8:00 救急部カンファレンス C 15~18 外科術前後症例検討会 C
28日(水)		16:00~18:00 皮膚科組織検討会(図)	17:00 消化器疾患カンファレンス C
29日(木)			7:50 整形外科症例検討会 C 17~19 循環器カンファレンス C 18~19 代謝内科カンファレンス M
30日(金)			8:00 消化器病研究会 C 8:00 麻酔科症例検討会 手 17~18 救急部カンファレンス C

(図) 図書室 C 病院本館2階カンファレンス 手 手術室控室 別6 別6病棟 外来 小児科外来 M ミーティングルーム 研食 研修棟食堂  
問い合わせ先 〒860-0008 熊本市二の丸1番5号 国立病院機構熊本医療センター地域医療研修センター  
TEL 096-353-6501(代)内線263 096-353-3515(直通)